



奥津宿の^{かくや}隔夜供養碑

J R 名松線の終点にあたる伊勢奥津駅周辺には、奥津宿の格子戸の家並みが残されており、かつて関西方面から伊勢神宮を参拝する人々にぎわった伊勢本街道の宿場町の面影を感じることができます。

現在は街道を散策する来訪者などへのおもてなしの心を表す手作りの暖簾^{のれん}が各家の軒先に掛けられ、市の景観計画においても、歴史文化の薫る重要な地区として位置付けられています。

平成30年から令和2年にかけて、美杉町八幡地区(奥津・川上)を対象に実施した石造物の調査では、奥津宿周辺の奥津墓地で1基、そして「おんばさん」と呼ばれる延命地藏菩薩の祠の周辺で3基の「隔夜供養碑」と呼ばれる特徴的な石碑が確認されました。隔夜供養とは江戸時代に行われた修行の一つで、^{はせ}長谷寺(奈良県桜井市)周辺の寺社を一つ選び、1日目に念仏を唱えながら選んだ寺社を、その翌日に長谷寺を参拝するということを1,000日以上繰り返す過酷なもので、地域によっては大正時代まで続いたといわれています。

この奥津墓地とおんばさんの隔夜供養碑はいずれも江戸時代のもので、正面の中央に「千日」「隔夜」「供養」などの文字が刻まれているほか、「長谷寺」や「天照太神宮(伊勢神宮)」の文字も見られ、これらの石碑は伊勢神宮と長谷寺の間で行われた隔夜供養にちなむものと考えられます。



隔夜供養碑(おんばさん)

このような隔夜供養に関係する石碑は、市内では同じく伊勢本街道沿いの美杉町上多気地内で1基が確認されているのみで、隣接する一志地域や白山地域の石造物調査では確認されていません。伊勢神宮と奈良の長谷寺の間は、伊勢本街道を通るルートが最短距離となりますが、約90kmの距離があります。奥津宿は、その中間に位置することから、隔夜供養の上で重要な場所であり、これらの石碑は過酷な修行の達成を記念して建てられたものと考えられます。

今回紹介した隔夜供養碑のほかにも、伊勢本街道沿いには常夜灯や道標など、当時のにぎわいをしのばせる石造物が残されています。梅雨の晴れ間、奥津宿とその周辺を訪ねてみてはいかがでしょうか。

奥津・川上の石造物をまとめた報告書「美杉の石造物～八幡地区編～」を販売しています。

価 格 1,500円

販売場所 教委生涯学習課、教委各教育事務所、文化振興課(津リージョンプラザ)

